豊洲西小学校プールと豊洲市場を視察

4月21日、22日の2日間、東京都江東区の豊洲西小学校のプールと豊洲市場の視察研修を行った。目的は、本町のプールの老朽化に伴い、今後の効果的なプール運営についての調査研究と豊洲市場における広川産農産物の現状把握とピーアールである。

初日は、豊洲西小学校に併設され、学校の授業以外で一般利用もされているプールを視察した。

25m、6コースのプールで、水深は、0m~1・4mで、床が可動式になっており学年に合わせて水深が自在に変更できるが、一般開放時は1mになっている。小学校プールと民間プールの併用に至る経緯は、豊洲地区は、大型マンションの建設ラッシュに伴い人口が急激に増加したが、地域にスポーツセンターがなく、建設予定地もなかった。そのため、スポーツセンターに近い機能を持った施設を地域に開放して代替機能を持たせることになったとのこと。上階には、大きめの体育館とトレーニングマシンが並ぶスポーツジムがあった。

学校からの入り口と一般の入り口は別になっていて、それぞれ独立してセキュリティ管理されている。管理は、スポーツセンター運営のノウハウを持った委託事業者が行っているため、細かなメンテナンスが実現できている。

視察時は、一般に開放されていたが、利用されていた高齢の男性に話を聞くと、「安くて便利、とても助かっている。区民は非常に恵まれていると思う」とおっしゃっていた。

地域性は全く違うが、運営方法や設備面でのノウハウは、広川町で今後、検討する場合には役に立つ有意義な内容だった。

2日目は、早朝から、豊洲市場を訪問した。ここで唯一の青果卸会社である東京シティ青果株式会社より、説明、ご案内をいただいた。

2018年10月にオープン、商品の鮮度・品質を守る定温管理、閉鎖型施設、食品安全管理の国際認証を取得、スムーズは搬入搬出の設備など先進の卸売市場となっている。青果卸売場は約4090坪、市場内では、通称「ターレー」と呼ばれる一人乗りの運搬車が忙しく走っていた。市場内で小回りの利くこのターレーで買い付けに行くわけだ。

セリも行われていたが、今では、形式的なものになっているらしく、すでに多くは、配送先へと向かっているとのこと。

また、フレッシュラボというテストキッチンがあり、産地の試食フェアなどが開催されている。広川の苺も市場に並んでいたが、意見交換会では、「量が欲しい」「企画をしたい」など意欲的な意見もいただいたき、今後の連携、販売拡大に期待を大きくした。